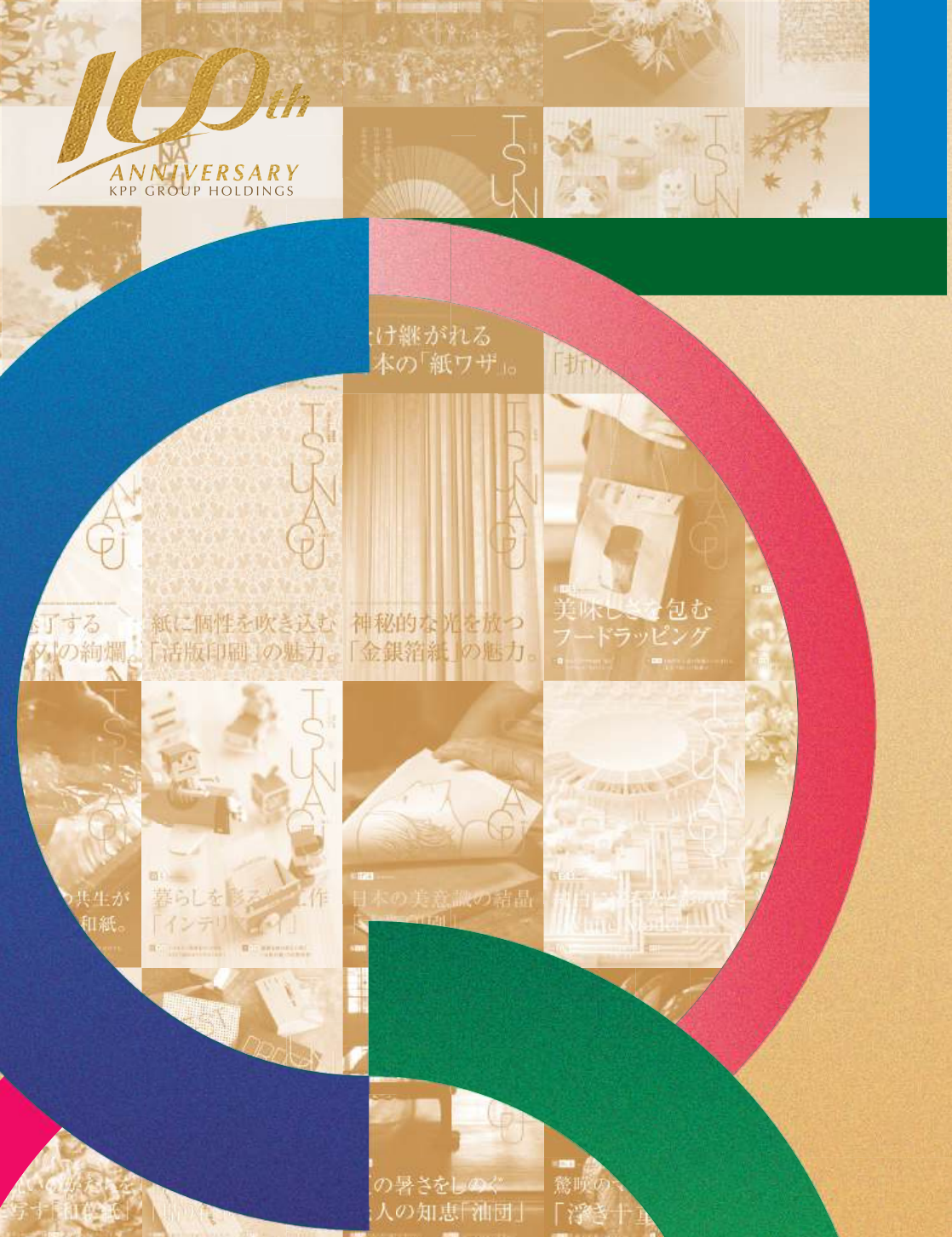
100th ANNIVERSARY
KPP GROUP HOLDINGS

TSUNAGU

［繋ぐ］

Vol. 60
2024 AUTUMN



紙と歩んだ百年を振り返る「KPP GROUP 100Years History」

深める Special

創立100周年記念事業「リラックマ×スポGOMI 2024」／「和紙漉きワークショップ」

100周年記念号発行にあたって

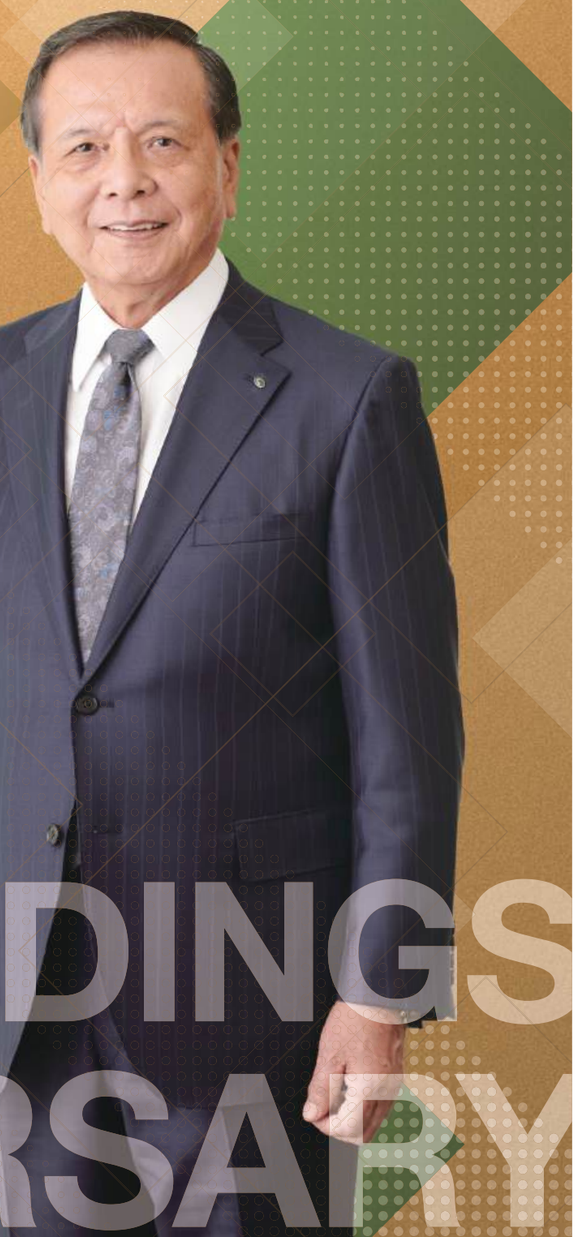
KPPグループホールディングスは2024年11月27日をもちまして、創立100周年を迎えます。KPPグループを代表して、今日まで当社グループを支え続けてくださったステークホルダーの皆様方に誌面をお借りして感謝申し上げます。

広報誌「TSUNAGU」は、KPPグループのコーポレートメッセージである「紙でつなぐ、未来をつくる」を体現した情報発信ツールとして2007年4月に創刊し、このたび創立100周年特別号を発行することができました。今後とも、紙を起点としたタイムリーな情報発信と、紙文化の魅力をお伝えしていきたいと思います。

また、これまで築きあげてきた100年の歴史を、次の100年を担う原動力とし、紙の可能性を極限まで追求すると共に、新たなビジネスの創出に取り組んでいきたいと思います。

今後とも読者の皆様のご声援を賜りますようお願い申し上げます。

KPPグループホールディングス株式会社
代表取締役会長 兼 CEO
田辺 円



KPP GROUP HOLDINGS
100TH ANNIVERSARY

TSUNAGU

TSUNAGU 2024 Autumn

KPPグループホールディングスが発行するTSUNAGU（繋ぐ）は“紙の魅力再発見”をテーマに、紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。

特別企画 …… P03
紙と歩んだ百年を振り返る
「KPP GROUP 100years History」

伝える …… P17
芥川龍之介の思いを感じさせる
無二の友人に宛てた書簡

PAPER TOPICS …… P19
アンタリスが欧州伝統の
ペーパーブランドを継承

深める …… P20
創立100周年記念イベント
「リラックマ×スポGOMI 2024」
「和紙漉きワークショップ」を開催

作る …… 付録
創立100周年記念の特別仕様
エコモちゃんのペーパーフィギュア

紙と歩んだ百年を振り返る

KPPグループ創立100周年を記念した特別企画として、全4回にわたり100年におよぶ発展の歴史をご紹介します。それぞれの時代に起きた社会の出来事やトピックスも含めて、紙と歩み続けてきたKPPグループの足跡を辿ってみてください。

PART.3 1974-2024

1974-2000

社会のニュース

1990
・東西ドイツ統一

1991
・多国籍軍がイラク攻撃、湾岸戦争勃発

1987
・国鉄が分割・民営化。JR7社発足

1989
・昭和天皇崩御、平成と改元

1993
・ヨーロッパ連合（EU）発足
・サッカー「Jリーグ」発足

1994
・大江健三郎さんが ノーベル文学賞受賞

1995
・阪神・淡路大震災発生

1998
・長野1998 冬季オリンピック開催

長野五輪（写真：アフロスポーツ）

2000 | 1995 | 1990 | 1974

KPPの歩み

1974
・創立50周年を機して、現在の本社所在地である中央区明石町に東京本店新社屋を建設

1993
・世界初の紙シールタイプの切り花長持ち材「花想」を発売

1997
・シンガポール支店が法人格となり、シンガポール大永設立

シンガポール大永

・第1回KPP文化展を開催

1997年から2019年まで隔年で開催し、社員とその家族が自作した絵画・書物・置物などを展示

KPP文化展

1999
・紙流通業界再編の先駆けとして株式会社日亜と合併し、社名を「国際紙パルプ商事」と改める（通称KPP）

2000
・2001年3月期に売上高3,000億円超

Vol.1
TSUNAGU 創刊
多様な紙文化の魅力を伝えるとともに、ステークホルダーとの信頼を深めることを目的として創刊（年2回発行）

Vol.3
芝居小屋や源氏物語などをテーマに、表情豊かな和紙人形絵巻の作品をつくる作家・中西京子さんを特集。

Vol.6
ハサミだけで緻密なレース編みのような切り絵を生み出す世界的アーティスト・蒼山日菜さんを紹介。

Vol.8
重ねた紙を彫って絵を描く半立体作品・彫紙アートの第一人者として活躍する林敬三さんをピックアップ。

Vol.1（2007年春号） Vol.2（2007年秋号） Vol.3（2008年春号） Vol.4（2008年秋号） Vol.5（2009年春号） Vol.6（2009年秋号） Vol.7（2010年春号） Vol.8（2010年秋号） Vol.9（2011年春号）

2007
・郵政事業民営化
・東京ミッドタウンオープン（東京都）

2006
・第1回ワールド・ベースボール・クラシックで日本優勝

2005
・日本国際博覧会「愛・地球博」開幕

2004
・営団地下鉄が民営化。東京メトロ誕生

2003
・「千と千尋の神隠し」がアカデミー賞「長編アニメーション映画賞」受賞

2002
・サッカーW杯 日韓大会開幕

日韓W杯（写真：JFA/アフロ）

2001
・ユニバーサル・スタジオ・ジャパン開園（大阪府）
・東京ディズニーシー開園（千葉県）
・野依良治さんがノーベル化学賞受賞

社会のニュース

2007 2006 2005 2004 2003 2002 2001

KPPの歩み

2007

・柏井紙業株式会社と合併。営業力の強化及び収益基盤の拡充を図る

・2008年3月期に過去最高の売上高4,230億円、経常利益45億円を達成

・古紙回収ヤード「東海リサイクルセンター」の営業開始（愛知県東海市）

東海リサイクルセンター

2006

・服部紙商事株式会社と合併
流通機能の充実と経営基盤の強化を図る

・国紗韓紙漿紙張商貿（KPP中国）設立

中国・上海市「花園飯店（ホテルオークラ）」にて行われた開業式

・中期経営計画「GIFT2006」策定

2003

・東京本社ビル竣工
現在の姿に

KPP Back Story
紙の魅力を発信し続ける本社1階「ギャラリースペース」

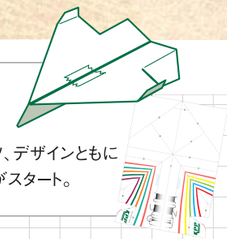
本社1階エントランスにあるギャラリースペースは、年間を通して紙の魅力を発信する場として活用され、これまでもさまざまな展示が行われました。KPPグループの取り組みや画期的な紙製品を実際にご覧いただけます。ぜひお立ち寄りください。

2016年／KPP築地ユポ®市場

Vol.17
赤松恭夫会長・田辺 円社長（当時）の対談を掲載

Vol.13
オリジナル作品の販売や商業施設のディスプレイを手掛けるモビール作家・いろけんさんを特集。

Vol.11
TSUNAGU リニューアル
内容の充実を図り、紙の魅力、新たな感動を伝えるためにコンテンツ、デザインともに刷新。年4回発行、16ページ構成に変更。ペーパークラフトの付録がスタート。



2011
東日本大震災特別号発行

Vol.17（2013年秋号）

Vol.16（2013年夏号）

Vol.15（2013年春号）

Vol.14（2013年冬号）

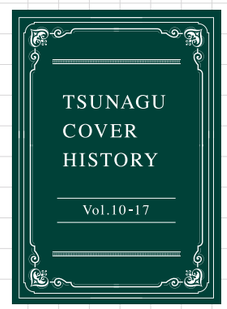
Vol.13（2012年秋号）

Vol.12（2012年夏号）

Vol.11（2012年春号）

Vol.10（2011年秋号）

臨時増刊号（2011年5月発刊）



2012

・東京スカイツリー開業（東京都）
・山中伸弥さんがノーベル生理学・医学賞受賞
・渋谷ヒカリエオープン（東京都）

2011

・東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）発生
・九州新幹線 博多～新八代間開通し全線開業
・サッカー女子W杯で日本初優勝

2010

・小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
・東北新幹線 八戸～新青森間が開通し全線開業

2009

・裁判員制度スタート
・マイケル・ジャクソンさん死去（享年50才）

2008

・米・大手証券会社リーマン・ブラザーズが経営破綻 リーマン・ショックから世界金融危機へ

リーマンショック（写真：ロイター／アフロ）

社会のニュース

2012 2011 2010 2009 2008

2012

・鳴海屋商事が制作した仙台七夕飾りの展示がスタート（2024年は銀座松竹スクエアにて展示）

仙台七夕飾りの展示

2011

・古紙リサイクルポイントシステム「タウンecomo」サービス開始

KPP Back Story
全国各地で導入が進む「タウンecomo」

古紙回収・再資源化を通して循環型社会の実現をめざす方針のもと、2011年にスタートした古紙回収リサイクルシステム「タウンecomo」。2016年2月には全国設置台数300台を突破し、現在は46都道府県で400台以上が導入されています（2024年9月現在）。ぜひお近くにある「タウンecomo」をご利用ください。

「タウンecomo」設置店▲

2011

・東京都中央区に環境配慮型の高機能オフィスビル「KPP八重洲ビル」竣工

KPP八重洲ビル

2009

・紙関連ソリューションサイト「PAPERMALL」開設

・取締役会長（当時）の鈴木 光が旭日小綬章を受章

KPPの歩み 2008-2012

Vol.26

ペーパーアーティスト・伊藤 航さんのアトリエを訪問。精微な技術によって創り上げられた、光と影が織りなす純白の作品を紹介。

Vol.22

・TSUNAGU英語版の発刊開始
・植村鞆音氏「『手紙』は語る」連載開始

Vol.19

創立90周年特別号「KPPをより深く知っていただくための90のこと」発行

2014

2014日本BtoB広告賞 PR誌の部で銅賞受賞

Vol.26（2016年冬号）

Vol.25（2015年秋号）

Vol.24（2015年夏号）

Vol.23（2015年春号）

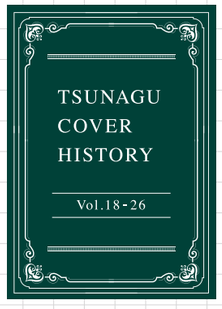
Vol.22（2015年冬号）

Vol.21（2014年秋号）

Vol.20（2014年夏号）

Vol.19（2014年春号）

Vol.18（2014年冬号）



2015

・北陸新幹線 長野～金沢間開業

・人気漫画「ONE PIECE」が1人の作家による最も多く発行された漫画シリーズとしてギネス世界記録に認定

・ラグビーW杯で日本が歴史的3勝を挙げる

2014

・石州半紙、本美濃紙、細川紙が「和紙 日本の手漉和紙技術」としてユネスコ無形文化遺産に登録される

・富岡製糸場が世界文化遺産登録決定（群馬県）

・ソチ冬季五輪男子フィギュアスケートで羽生結弦さんが金メダル

2013

・富士山が世界文化遺産に登録

・冒険家 三浦雄一郎さんが世界最高齢の80歳でエベレスト登頂に成功

富士山（写真：毎日新聞社/アフロ）

社会のニュース

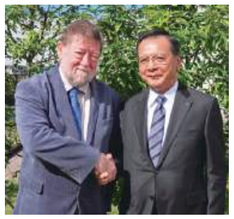
2015 2014 2013

KPPの歩み 2013-2015

2015

・「一般財団法人 C.W.ニコル アファンの森財団」のオフィシャルスポンサーに就任

同財団が行う森林保全活動への支援を開始



C.W.ニコル氏と田辺社長（当時）

2022年よりアファンの森 南エリアの整備支援を開始

・KPP ASIA-PACIFIC PRIVATE LIMITEDを設立

シンガポールにアセアン・インド・オセアニア地域事業を統括

2014

・機密文書処理施設「ecomo LINCLE 市原センター」オープン（現在閉所）

・古紙問屋ネットワーク「KPP リサネット会」が拡大し、再組成

ecomo LINCLE 市原センター（現在閉所）

2013

・住商紙パルプ株式会社と合併

・現地法人韓国大永設立

住商紙パルプ株式会社と合併

・KPP公式Youtubeチャンネルを開設

YouTube

Vol.35

C.W.ニコル氏とアウテンボーガルト・ロギール氏の対談を掲載

Vol.31

・創刊10周年を記念して、誌面で特集した作家の作品を展示するTSUNAGU Gallery初開催（布施知子氏）

・コーポレートサイト上に特集ページの掲載をスタート

Vol.35（2018年春号）

Vol.34（2018年冬号）

Vol.33（2017年秋号）

Vol.32（2017年夏号）

Vol.31（2017年春号）

Vol.30

和菓子用の木型を和紙で写し取った「和菓紙」作品が注目を集める美術作家・永田哲也さんを紹介。

Vol.27

タウンecomo設置300台突破を記念した特集記事を掲載

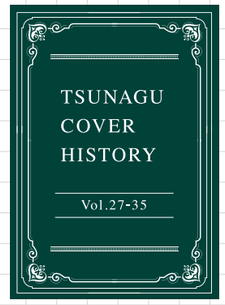
今回の付録は、ecomoオフィシャルキャラクター「エコモちゃん」のペーパーフィギュア（創立100周年の特別仕様）です！

Vol.30（2017年冬号）

Vol.29（2016年秋号）

Vol.28（2016年夏号）

Vol.27（2016年春号）



2018

・築地市場が83年の歴史に幕を閉じ閉場（東京都）
・フィギュアスケート 羽生結弦さんに国民栄誉賞
・テニス女子 大坂なおみさんが全米オープン優勝
・本庶 佑さんがノーベル医学・生理学賞受賞

2017

・将棋 藤井聡太四段がデビューから無敗のまま公式戦29連勝の新記録

藤井聡太（写真：毎日新聞社／アフロ）

2016

・北海道新幹線　新函館北斗～新青森間が開業
・MLB イチローさんが日米通算安打数でメジャー記録を更新
・熊本地震発生
・改正公職選挙法施行 選挙権が18歳に引き下げられる

社会のニュース

2018 2017 2016

2016-2018 KPPの歩み

2018

・東京証券取引所市場第一部（現プライム市場）に上場

・Green Biz Projectがスタート

若手社員を中心にプラスチックの代替素材や代替製品の開発・流通に取り組む

2018

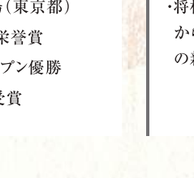
・東日本大震災の復興支援の一環として、宮城県・東松島「復興の森」での椿（つばき）・三椏（みつまた）の植樹と紙漉き体験ワークショップを初開催

2016

・総合循環型企業をめざし、バイオマス事業進出
バイオマス発電燃料の販売を目的としたサーマルリサイクル事業がスタート

Vol.44

・コロナ禍において未来へのメッセージを発信
・C.W.ニコル氏追悼記事を掲載
・アンタリス紹介記事を掲載



Vol.42

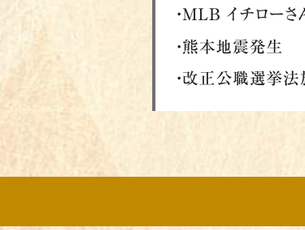
KPPの循環型社会実現に向けた取り組みを紹介する「KPP Sustainable Times」連載スタート

Vol.40

スパイサーズ紹介記事を掲載

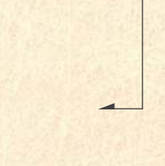
Vol.39

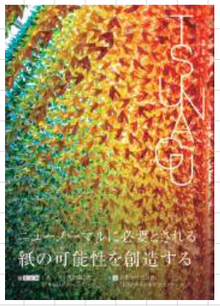
プラスチックごみ問題に対するKPPの取り組みを紹介



Vol.36

1枚の紙から魅惑的な美しさを纏った昆虫アートを生み出す小林和史さんの作品をピックアップ。





Vol.44（2020年秋号）

Vol.43（2020年春号）

Vol.42（2020年冬号）

Vol.41（2019年秋号）

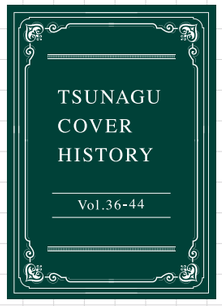
Vol.40（2019年夏号）

Vol.39（2019年春号）

Vol.38（2019年冬号）

Vol.37（2018年秋号）

Vol.36（2018年夏号）



社会のニュース

2021
・東京五輪・パラリンピックが1年延期を経て開幕。
無観客での開催、日本は過去最多の58メダルを獲得
・MLB 大谷翔平さんが二刀流で活躍。
アメリカン・リーグMVP受賞

2020
・新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大
・改正容器包装リサイクル法によりレジ袋の有料化が義務化

2019
・皇太子徳仁親王が天皇に即位され、
令和に改元
・新国立競技場が完成
・ゴルフ全英女子オープンで、渋野日向子さんが優勝

新元号「令和」（写真：AP/アフロ）

KPPの歩み 2019-2022

2022 | 2021 | 2020 | 2019

2022
・twitter（現X）、インスタグラムに公式アカウントを開設

2021
・売上高5,000億円を達成
・現地法人台湾大永を設立

2022
・サステナブルな成長戦略をサポートするビジネスソリューションサイト「SHIFTON」を開設

2020
・欧州第1位の大手紙商アンタリスを子会社化

2019
・代表取締役社長（現会長 兼 CEO）
田辺 円が旭日中綬章を受賞

・アジア・パシフィック圏の大手紙商スパイサーズを子会社化

Vol.53
五輪女子マラソンメダリスト・有森裕子さんと会長 兼 CEOの田辺によるスペシャル対談を掲載

Vol.50
50号を記念して、アーティスト／東京藝術大学学長日比野克彦さんほかの、スペシャルインタビューを掲載

Vol.47
新たに策定されたコーポレートメッセージを掲載

Vol.46
ハイブランドの回顧展に作品を提供するなど世界が注目する気鋭の切り絵アーティスト、柴田あゆみさんのアトリエを訪ね、作品に込められた思いを取材。

Vol.53（2023年冬号）

Vol.52（2022年秋号）

Vol.51（2022年夏号）

Vol.50（2022年春号）

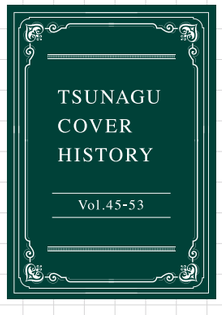
Vol.49（2022年冬号）

Vol.48（2021年秋号）

Vol.47（2021年夏号）

Vol.46（2021年春号）

Vol.45（2021年冬号）



社会のニュース

2024

・能登半島地震発生
・新紙幣10000円札、5000円札、1000円札発行

2023

・第5回ワールド・ベースボール・クラシック開催
日本が14年ぶり制覇
・英国国王チャールズ3世が戴冠

英チャールズ国王戴冠（写真：代表撮影/ロイター/アフロ）

2022

・ロシア軍がウクライナに侵攻
・英国女王エリザベス2世が逝去
・2022年冬季五輪北京大会開催。
日本は最多18個のメダルを獲得

北京五輪（写真：ロイター/アフロ）

KPPの歩み 2022-2024

2024 | 2023 | 2022

2024

・KPPアグリソリューションズ創立
・KPPグループ創立100周年の記念サイトを公開

https://100th.kpp-gr.com/

2024 11月
KPPグループ創立100周年

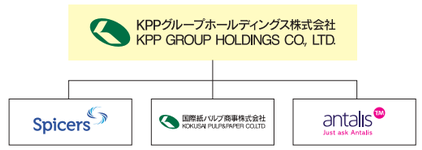
2022

・コーポレートサイトを
リニューアルオープン

・テレビ／ラジオCM
「紙でつなぐ、未来をつくる」放送開始

2022

・持株会社体制に移行。商号をKPPグループホールディングス株式会社に改称。**45カ国・地域、147都市、157拠点に事業展開し、5,354名（※当時）を有するグローバル企業へ**



・KPPグループの理念体系「KPPグループウェイ」を刷新

・売上高6,000億円を達成
・王子ファイバー株式会社を子会社化
「かみのいとOJO+（オージョ）」の取り扱い開始

・株式会社BMecomo 設立
バイオマス発電所の運転管理・設備管理・事業管理を支援するシステムの開発・販売を行う

BM ecomo Biomass Meister

Vol.59
質感の異なる紙を使い分け、日常の情景をリアルに表現するペーパーアーティスト・太田隆司さんを紹介。

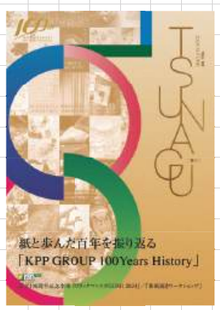
Vol.58
KPPグループ創立100周年特別記念連載スタート

Vol.56
かみのいとの活用事例「OJO+ Column」の連載開始

Vol.54
愛媛県内子町に伝わる「大洲和紙」にフランス伝統の箔装飾を施した「ギルティング和紙」を特集。

TSUNAGUの電子版は、KPPグループホールディングスのコーポレートサイトでご覧いただけます。またバックナンバーの郵送も承っています（一部の在庫終了号を除く）。
この機会にぜひURLをご覧ください。

TSUNAGU
バックナンバー紹介ページ▶
https://www.kpp-gr.com/ja/tsunagu.html



Vol.60（2024年秋号）

Vol.59（2024年夏号）

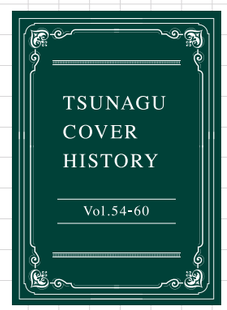
Vol.58（2024年春号）

Vol.57（2024年冬号）

Vol.56（2023年秋号）

Vol.55（2023年夏号）

Vol.54（2023年春号）



「手紙」は語る

植村鞆音

人間は表現する動物だというが、
手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。
手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第三十八回　芥川龍之介

教師だった父の専攻は東洋史だったが、文芸にも一家言あり、書架には、露伴、鷗外、漱石、芥川などの全集があふれていた。わたしは大学受験に失敗して浪人していた頃、父の書架から芥川全集を引っ張り出して読みふけった。

芥川の全集は大判で、全八巻。芥川が死んだのは昭和二年七月だが、全集の発刊が始まったのはその年の十一月である。用紙は英国製コットンで、表紙は紺の手織りクロス、題字が長男比呂志、小穴隆一装丁の岩波書店版である。

父が死んだのが昭和六十二年五月。遺品の中に、芥川が友人の画家・小穴隆一に宛てた大正十年二月二十日付の手紙を表装した茶掛けがあり、わたしが譲り受けた。

「ぬばたまの夜風に冴えは返る頃を一遊亭よ風ひくなゆめ　打ち日さす都をさかる
汽車の窓に円中なんぢを思ふ男あり　一日おくれ今夜発　足同行は宇野耕右エ門
二人共下戸故□や□はなし唯□ばかり　夜来花庵主　小穴隆一君」

亡くなって今年で九十七年が経つが、芥川龍之介を知らない人はまずいないだろう。主として大正時代を舞台に活躍した小説家である。三十五歳で服毒自殺を遂げた。いまだに人気が高い。代表作『鼻』『羅生門』『歯車』など。

もと田端文士村記念館の学芸員だった種井 丈さんが手紙を解説してくれた。「一遊亭」は小穴隆一の俳号、「円中」は同じく小穴の号、「宇野耕右エ門」は作家宇野浩二、「夜来花庵主」は芥川自身のことである。およその意味は、「夜風が冷たい。小穴くん、風邪を引くな。都を離れる汽車の窓の外の風景を眺めながらきみのことを思っている。一日遅れで今夜汽車に乗った。同行は宇野浩二。二人とも下戸なので、盃も徳利もなし。おとなしく蜜柑を食べている」といったところか。どうやら芥川は宇野と一緒に大阪に向かい、大阪毎日新聞を訪ねたらしい。

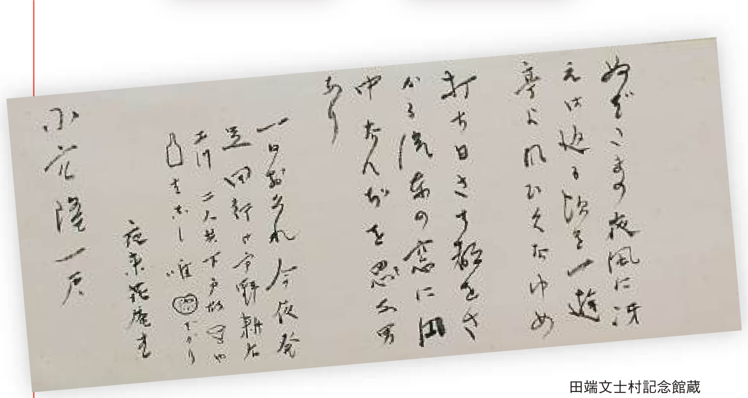
新聞社を訪問した芥川は、海外視察員として中国に行ってみないかと持ちかけられ、承諾する。漢籍に造詣深い芥川に中国視察は魅力的だったのだろう。翌年三月、彼は門司から上海に向かう。中国では四か月を過ごすが、芥川にとってこの視察旅行はけっしていい旅とはいえなかったようである。彼は現地で肋膜炎にかかって入院、たび重なる体調不良に侵される。帰国後も体調不良を引きずった芥川は、神経衰弱にも悩まされる。「心身ともにダメージを負った中国旅行は芥川の人生の分岐点になった」と種井さんはいう。日本も世界も、激動の時代を迎えつつあった。大正十年末には原 敬首相暗殺、十一年ソ連邦成立、十二年関東大震災、十四年日本プロレタリア文芸連盟結成。時代の流れの中でナイーブな彼の不安が増幅したであろうことは想像に難くない。彼の作品にいわゆる「ぼんやりした不安」が登場しはじめる。そして、死。

わたしは、芥川の菊池　寛、恒藤　恭、久米正雄などとの交友はある程度承知してはいたが、手紙の宛先の小穴隆一との深い関係についてはほとんど知らなかった。種井さんの送ってくださった資料によれば、小穴は長崎県出身の洋画家で、芥川の二歳年下。芥川が小穴を知るきっかけになったのは、大正八年、俳句雑誌「海紅」に掲載された小穴の雄鶏の挿絵に芥川が興味を示したことにあったという。めぐり会った二年後の『夜来の花』以来、小穴はたくさんの芥川の著書の装丁を手掛けている。また、十一年には芥川をモデルに『白衣』という絵画を制作、二科展に出品して話題を集めた。芥川はよほど小穴が気に入っていたのだろう。自伝的小説『或阿呆の一生』の中で小穴との出会いを「一生のうちでも特に著しい事件。（中略）この画家の中に誰も知らない詩を発見した」と書いている。小穴が脱疽で右足首を切断手術したときには立会人を務めているし、二男の名前には小穴隆一の「隆」を訓読みにして、「多加志」と名付けている。亡くなった昭和二年には、事前に自殺の決意を伝え、子どもたち宛ての遺書には「小穴隆一を父と思え」と書き残している。異常ともいえる小穴への傾倒である。

わたしは齢八十代半ばを過ぎたが、この三十年ほど頭を悩ませてきたのは父が残した軸物の類の処理だったが、最近ようやく解決のめどが立った。わたしは父の時代を読む力を全面的に信頼してきた。信頼の主たる根拠は、太平洋戦争の帰結である。その父が、遺品のうち書籍の類は十年後には価値が増すと思う、その頃売るのがいいと言い残して死んだ。わたしはその言を忠実に守ったが、これだけは父の見こみ違いだったようだ。デジタル化が進み、古書は値を下げた。軸物の類も同様である。なにより、新しく建てられる住宅には軸物を掛ける壁面が少ない。

きっかけは新聞の小さな記事だった。東京北区で芥川が家族と住んだ地に数年後芥川の記念館を新設する計画があるという記事を読んだわたしが、記念館の主体となる田端文士村なら芥川の茶掛けの需要があるかもと電話をしてみた。令和三年春先のことである。それから文士村とのつき合いが始まった。種井さんには芥川の茶掛けを一目で気に入ってもらい、しばらくして文士村での展示の依頼を受けた。買い取りたいという話があったが、身内から聞いた父の買い取り価格と文士村の買いたいという価格があまりにも違いすぎるので、それはお断りした。種井さんは館長を同道、なんどか家に見えて同館との親睦は深まった。記念館での展示は十月から四か月に及び、双方が歩み寄って売却・購入の話も進んだ。

館長や種井さんに会う機会が増えて、わたしは改めて父の気持ちを推し量った。亡き父は晩年貴重な資料は関係のありそうな施設や人に寄贈していた。遺品は、遺品のもっとも相応しい場所に残されるべきだ。わたしは父の気持ちをそう推し量った。芥川龍之介の茶掛けは新しく完成する「芥川龍之介記念館」での展示が相応しい。「記念館」のどこかで茶掛けが見る人の目を楽しませることができれば、それは、芥川本人にとっても父にとっても本望とするところに違いない。



田端文士村記念館蔵

著者略歴

植村鞆音　エッセイスト

小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に『夏の岬』『気骨の人 城山三郎』など。

芥川 龍之介

小説家
1892-1927

1892年、東京市京橋区生まれ。東京帝国大学卒。在学中から創作を始め、短編『鼻』が夏目漱石に評価され、文壇に登場。卒業後、海軍機関学校の嘱託教官として勤務する傍ら創作活動を続け、『芋粥』『地獄変』『奉教人の死』など、主として説話や古典に題材を求めた短編を多数発表。歴史小説の新しい領域も拓いた。1925年頃より体調がすぐれない日々が続き、「唯ぼんやりした不安」のなか、35才という若さで薬物自殺した。

KPPグループ創立100周年記念イベント「リラックマ×スポGOMI 2024」大阪大会を開催

2024年9月8日（日）、大阪府大阪市北区の扇町公園周辺エリアにて、KPPグループホールディングス主催の「リラックマ×スポGOMI 2024」第1回 in 大阪が開催されました。「スポGOMI」は、（一社）ソーシャルスポーツイニシアチブの馬見塚健一代表が「ゴミ拾いはスポーツだ!」を合い言葉に考案し、企業や団体が取り組む従来型のごみ拾いに「スポーツ」の楽しさを融合させ、今までの社会奉仕活動を「競技」へと変換したものです。

本イベントはKPPグループ創立100周年を記念し、国際紙パルプ商事の本社・支店のある6都市で開催され、国民的キャラクター「リラックマ」とのコラボが実現。ゴミ拾いをスポーツにした画期的なアクティビティに、参加した方々も楽しそうにごみを拾う姿が見られました。参加人数は26チーム103人にのぼり、最終的に計57.05kgのごみが集まりました。

■ルール

複数人でチームをつくり、指定されたエリアで制限時間内に拾ったごみの量や種類に応じて与えられるポイントを競います。子どもから大人まで、幅広い年齢層が参加することができます。

■参加条件

・1チーム5人以下の編成
・お子さま（推奨年齢5歳以上）から大人まで参加可能
・参加メンバーが12歳以下のみのチームは保護者（または18歳以上の方が1名以上）同伴

INFORMATION

「リラックマ×スポGOMI 2024」開催日程　※第1回～第3回大会は終了しました

■第4回 北海道大会
日　時　：10月27日（日）9:30～12:20
集合場所：円山公園

■第5回 福岡大会
日　時　：11月10日（日）9:30～12:20
集合場所：中比恵公園

■第6回 東京大会
日　時　：11月23日（土）9:30～12:20
集合場所：築地川公園

参加申し込み・イベント詳細はコチラ

「リラックマ×スポGOMI」特設サイト
https://green-maker.org/host/rilakkuma

PAPER TOPICS

アンタリスが欧州伝統のペーパーブランドを継承。自社ブランドとして世界各国での販売を開始しました

ヨーロッパで生まれ、歴史と伝統に育まれた由緒あるペーパーブランドを当社グループ会社であるアンタリスが継承し、自社ブランドとして欧州をはじめ世界各国での販売を開始しました。新たなブランドのうち、日本でも入手可能な銘柄をピックアップしてご紹介します。
※下記ブランドはすべてFSC認証紙です。

Conqueror
コンケラー

1888年に英国で誕生したコンケラーは、現在もなお多くの国で高い評価を得ている人気ペーパーブランドのひとつです。おもにレターヘッドや封筒、名刺、カードなどのステーショナリーに用いられ、その色合いや手触りを通じて大切なメッセージやイメージを力強く伝えるとともに、長い歴史と伝統を持つペーパーメディアならではの確かな満足感があります。コンケラーには各種テクスチャー、紙厚、カラーのバリエーションがあり、用途に合わせたコーディネートも可能です。

各テクスチャーの特徴

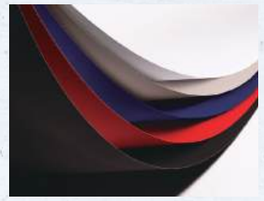
・「レイドN」…… ヨーロッパの伝統と洗練を感じさせる「すの目」模様。
・「ウーブN」…… しっかりした質感の平滑仕上げ。
・「CX22N」…… 高い平滑性のスムース仕上げ。OAプリンタに最適。

Curious Collection
キュリアス コレクション

新しい可能性や用途を探求するデザイナーの“好奇心（＝CURIOUS）”を刺激するクリエイティブなペーパーブランド。特徴の異なる仕上げ・触感・カラーリングによって、デザインの可能性を広げます。

キュリアス メタルN
金属を思わせるような輝きが特長の両面パール紙。メタリックで深みのある色合いと指先に心地良い質感で印刷効果も高く、パッケージや紙製品、装幀、招待状など多岐にわたる用途で高級感を演出します。

キュリアス スキンN
しっとりとなめらかな“肌”のような、今までにない触感を実現。マット調で驚くほどシルキーな紙面にもかかわらず、指紋、擦れ、傷がつきにくいのが特徴。その触感と鮮烈なカラーリングはパッケージや印刷物に強いインパクトをもたらします。



キュリアス マターN
ポテト由来の粒子による細やかなざらつき感のあるユニークで印象に残る触感。高級パッケージ、カバー、名刺など、触れた瞬間に他にはない驚きを与えてくれます。

キュリアス TL-N（トランスルーセント）
ハイエンドのトレーシングペーパー（半透明紙）。製図用途のほか、フォトアルバムやカタログ、パンフレット、ダイレクトメール、カバー、仕切り等に最適です。

INFORMATION

キュリアスNシリーズの展示会
「CURIOUS Exhibition WAVING FLAG」
会期：2024年10月11日（金）-11月29日（金）
9:00～17:00　※土日祝休館・入場無料
会場：平和紙業ペーパーボイス東京
（東京都中央区新川1-22-11）

PAPER MALL
本ページでご紹介した
コンケラー「レイドN／ウーブN」
キュリアス「メタルN／スキンN／マターN」は、
「PAPER MALL」でもご購入いただけます

▲コンケラー　▲キュリアス

Workshop 02

銀座松竹スクエア（東京都中央区築地1-13-1）

7月20日（土）開催

7月20日（土）、オフィスや共同住宅、飲食店、図書館などが入る大型複合ビル・銀座松竹スクエア1Fホールにて、中央区在住の小学生を対象とした和紙漉きワークショップを開催しました。一般公募にて参加者を募りましたが、夏休み期間ということもあり多くの小学生や保護者の方々にご参加いただきました。

ワークショップでは、原料の白皮繊維の塊を打ち台に乗せ、打棒で叩いて繊維質を細かくする「叩解（こうかい）」の工程など、和紙づくりの工程について実演を交えて紹介。初めて和紙づくりを行う子どもたちは興味津々の様子でした。

また、こちらの銀座松竹スクエアには、当社グループの鳴海屋紙商事（宮城県）が制作した仙台七夕飾りのほか、和紙製の笹飾りも展示しており、和紙の魅力に触れていただく機会となりました。

Workshop 03

KPP東京本社（東京都中央区明石町6-24）

7月21日（日）開催

7月21日（日）、KPP本社食堂にて、社員とその家族に向けた和紙漉きワークショップを開催しました。参加者はまず、食堂横にあるサンクンガーデンへ。生育する実際の楮（こうぞ）・三椏（みつまた）を見ながら説明を受け、和紙の原料についての理解を深めました。和紙漉きを初めて体験する参加者も多く、子どもだけでなく大人も慣れない作業に苦戦しながらていねいに作業を進め、ようやくオリジナルの和紙が完成。でき上がった和紙を光にかざし、ランプシェードにする際の光の透け感を確かめたりと、真剣かつ楽しい時間を過ごしている様子でした。

なお、企画・運営に携わってきた社員たちもこの日初めて作品づくりに挑戦。自らの手を動かすことでより紙を身近に感じることができました。

編集後記

100周年記念号の発行にあたり、通常号に比べて構成を決めるのに時間がかかりました。皆でネタを持ち寄り、本誌がKPPの100周年を共に祝うということの意味、そしてそれをどのように表現するかを詰めていきながら、KPPや現代社会の連綿と続く歴史をTSUNAGUがどう伝えてきたのか、ひと目で分かるように年表にまとめることに決めました。それが発行の約1か月前(!)のことです。

これまで、TSUNAGUという冊子は各号が点ではなく、紙文化の発展と継承という共通の使命を持ったベクトルである、というイメージを持ちながら発行に携わってきました。言葉にすると少し硬い印象かもしれませんが、P3からの表紙ギャラリーは、そんな時間軸を皆さまと一緒に辿りたいという思いから生まれています。表紙のテーマは、型紙や襖紙といった伝統工芸品、凧、紙製のおもちゃや服、切り絵、等々。紙という素材から広がる興味という船に、一人でも多く乗っていただきたいと選んできたストーリーの著しです。質感の異なる加工を施しているので、ぜひ手で触れてお愉しみいただけたらと思います。

TSUNAGUを手に取ってくださる方の中には、数か月前からご覧いただいている方も、15年以上のお付き合いの方もいらっしゃるかと思いますが、編集部一同、皆さまとKPPグループが関われたそれぞれの日々を祝う気持ちを込めてこの号を制作しました。いつもご覧いただきありがとうございます。これからも一緒に時間を過ごしていけたら嬉しいです。

（加藤智香）

東京都中央区の3会場にて 当社栽培の原料を用いた「和紙漉きワークショップ」を開催

KPPグループでは創立100周年記念事業の一環として、2023年6月より本社食堂横のサンクンガーデンにて和紙の原料となる楮（こうぞ）と三椏（みつまた）を栽培しています（Vol.57にて成長記録を紹介）。成長した楮と三椏は昨年12月に収穫し、今夏、それらを原料に用いた和紙漉きワークショップを開催しました。

このワークショップは社内外のステークホルダーのみなさまへの感謝をお伝えするとともに、時代を超えて親しまれている和紙の魅力を知ってもらうことを目的に開催し、子どもたちを中心に多くの方々にご参加いただき、盛況を博しました。今回は、KPP本社や周辺施設の計3か所で開催した各会場の様子をご紹介します。

Workshop 01

京橋築地小学校（東京都中央区築地2-13-1）

7月10日（水）・11日（木）開催

7月10日（水）・11日（木）の2日間、本社（東京都中央区）より850mほどの距離にある中央区立京橋築地小学校にて、小学3年生の全3クラス・約80人を対象とした和紙漉き体験授業を実施しました。授業は、オランダ出身で高知県在住の手漉き和紙作家、アウテンボーガルト・ロギールさんが講師を務め、和紙の原料となる楮や三椏から和紙ができるまでの工程をわかりやすく解説してくれました。手順に沿って一つずつ教わりながら、児童たちは和紙づくりに欠かすことのできない植物・トロロアオイの粘液に触れ、その手触りに驚いた様子でした。友だちと協力しながら制作した和紙が完成すると、一人ひとりが好みの植物を漉き込んだオリジナルの和紙を発表しました。児童たちにとって思い出に残る、貴重な体験となりました。

100th
ANNIVERSARY
KPP GROUP HOLDINGS

RICE INK

輸送マイレージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。

KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.
発行：グループ人事本部 グループコーポレート・コミュニケーション室
〒104-0044　東京都中央区明石町6番24号
TEL（03）3542-4166（代）
https://www.kpp-gr.com/

ぜひフォローをお願いいたします!
TSUNAGU
公式
インスタグラム
ID：kpp.tsunagu
KPP.TSUNAGU

「TSUNAGU」Vol. 60 使用紙：OKトップコートマットN（127.9g/㎡／王子製紙株式会社）マット紙としての充分な紙厚とダル調の優れた印刷再現性とを兼ね備えたA2マットコート紙です。